

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	語彙構成という相関関係の認識
Author(s)	下鳥, 照子
Citation	児童の言語生態研究 , 9 : 42 - 46
Issue Date	1978-06-08
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045104
Right	
Relation	



語彙構成という

相関関係の認識

下鳥照子

1. 授業案

一、日時 昭和五十二年十月二十八日

午後一時二十分～二時

二、児童 東京都町田市立南第四小学校四年二組

男子十七名・女子二十三名 計四十名

三、領域 用具言語

四、授業テーマ 語彙構成という相関関係の認識

五、授業テーマ設定の理由

ことばは、人間の精神活動の後づけとしてあるものだから、語彙は、その人の精神活動の範囲を示すものと言える。これは、小学生において、一年生から六年生に到る間に習

得することばについても同じことが言える。すなわち、一年生と、六年生が、それぞれ持っていることばは、量的に違うのではなく、その精神活動に伴った広がり方に違いがあるのである。子どもが新しいことばを習得したということは、自分の精神活動と、そのことばとの一致を意識したことであると同時に、自分の語彙のある位置に、そのことばが位置づけられたということである。

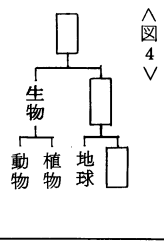
四年生一学期の終り頃から作り始めた、辞書作りの結果を見ても、子どもは、ことばの相関関係に気づいていることがわかる。辞書作りというのは、子どもが語彙構成という相関関係を認識することによって、語彙を広げることを目的として行っているもので、まずそれぞれの子どもの中

に、同類語群がどのように意識されているかを引き出すことから始めた。その方法は、一枚のカードに、自分の思いついたことばを一語書き、次にそのことばと同類と思われる語を連想して、二語目のことばを書き、そして連想が続く限り、次々とことばを書きつけて行き、ことばがとだえたら一度筆を置く。そうして今度は二枚目のカードに新たなことばを書き、それと同類と思われることばを連想してどんどん書きつける。という具合に、カードを何枚も増やしていくというものである。また、できたら、一枚のカードに書きつけた同類語群に、群としての名まえをつけるよう指示を与えた上で作業を進めさせた。作業時間約六時間。辞書作りの際に四年生が見せた「同類とする視点」は、

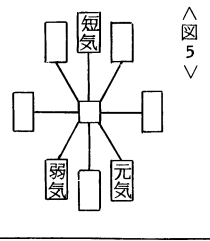
<p>① 語頭が同音△ままり、マントヒヒ・ママ△② 対である△反対語 大きい・細い・大きい・小さい・せまい・広い△</p> <p>③ 内容物において△水のあるところ△川・海・沼・湖・池△</p> <p>④ 役割、又は長の熟語△町長・会長・村長・組長・市長・議長△⑤ うそ△⑦ うそつき・だます・いかさま・ペテン△</p> <p>⑥ 用途において△救急箱に入っているもの△のほうたい・あかちん・バンドエイド・毒薬△⑦ 類△哺乳類・牛・犬・ねこ・くま△など様々である。しかし、動物のカード、昆虫のカード、爬虫類のカード、鳥のカードを作りながら、それぞれの名を書きだけに止まってしまう、昆虫、鳥、爬虫類はどれも動物であるという点で同類だという見方、すなわち上位↓下位の認識は出ていない。また、子どもが書きつけたことばは、圧倒的に、体言(名詞)が多く、体言の中でも、時間・方向・血縁・数量を除いては、自然物、生産物に包括される、物の名がほとんどであった。なお、用言(動詞) 相言(形容詞・副詞) という、作られたカードの数自体ごくわずかだっただけでなく、作っていても、一枚のカードに書きつけられた語数は少なかった。</p> <p>語と語との関係に意識がありながら、まだ構成的に整理がされていない四年生の実態からも、この時期に、語と語との相関関係を認識させることは、大きな意味があると思う。しかし、現段階では、語彙の全体構成の認識を試みさせるというより、ことばの相関関係のパターンを認識させることをポイントに置きたいと思う。ことばとことばは、同類関係、対立関係、上位下位関係、包括関係によって結びついていることを認識させたい。</p> <p>六、授業展開</p>	<p>学習活動 (発問・板書事項)</p> <p>指導上の留意点</p> <p>○ 今日、みんなが辞書</p> <p>○ 自分達が持っているこ</p>
--	---

<p>作りで書いたことばを整理して、ことばの関係を勉強します。</p> <p>○ これは、みんなのことばを整理して作った図です。□の中に入れたことばは、どのことばをいれればよいですか。</p>	<p>△図1△</p> <p>植物</p> <ul style="list-style-type: none"> 花 (ひまわり・たんぼぼ・すいせん) 野菜 (だいこん・かぼちゃ・にんじん) □ (もみ・すぎ・まつ・やなぎ) □ (かき・りんご・みかん・くり) <p>○ ここにある六つのことばは、どんな線をつなげていますか。</p>	<p>とばを整理するのだということをわからせたい。</p> <p>○ () 内のことばを包括する□のことばを考えることにより、□のことばとは、包括関係にあることを理解させたい。</p> <p>○ 横系列のことばは同位関係、縦系列のことばは上位下位関係にあることをわからせたい。</p>
<p>○ さて、この線で結んだら、□の中に入ることばがあたりはまりますか。</p> <p>○ 図1・図2で上位に位置することばに対して、さらに上位に位置することばがあることをとらえさせたい。</p>	<p>△図2△</p> <p>爬虫類 (へび・かめ・とかげ)</p> <p>昆虫 (ハチ・ハエ・ゴキブリ)</p> <p>動物 (インコ・にわとり・つばめ)</p> <p>鳥 (さんま・ひらめ・かつお)</p> <p>魚 (さんま・ひらめ・かつお)</p> <p>哺乳類 (犬・ねこ・うし・うま・ぞう)</p>	<p>△図3△</p> <ul style="list-style-type: none"> 平地 (山・谷) 山地 (相模川・江戸川・境川) 沼 (日本海・黒海・死海) 池 (太平洋・インド洋・大西洋) 川 (海) 海 <p>○ 図1・2・3をまとめると、このような図になります。□の中には、どんなことばを入れればよいでしょう。</p> <p>○ 図1・2・3を、一つの大きな構成としてとらえ、さらに上位に位置することばを考えさせたい。</p>

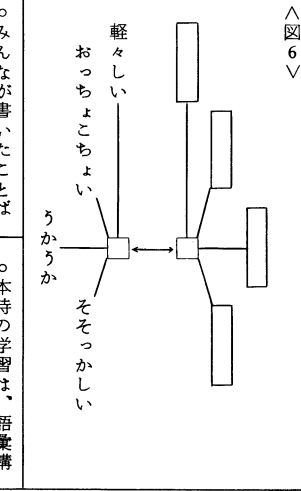
<p>△図1・図2△</p> <p>植物</p> <ul style="list-style-type: none"> 木 (もみ・すぎ・まつ……) 実 (かき・りんご・みかん……) 野菜 (だいこん・かぼちゃ……) 花 (ひまわり・たんぼぼ……) 爬虫類 (へび・かめ・とかげ……) 昆虫 (ハチ・ハエ・ゴキブリ……) 鳥 (インコ・つばめ・ほと……) 魚 (さんま・ひらめ・かつお……) 哺乳類 (犬・ねこ・うし……) 	<p>○ では、この図の□の中には、どんなことばが入るでしょう。</p> <p>○ 横系列のことばは同位関係、縦系列のことばは上位下位の関係にあることを理解させたい。</p>	<p>○ 図1・2・3をまとめると、このような図になります。□の中には、どんなことばを入れればよいでしょう。</p> <p>○ 図1・2・3を、一つの大きな構成としてとらえ、さらに上位に位置することばを考えさせたい。</p>
--	---	--



△図4▽
○こんな図もできました。さて、□の中には、どんなことばが入りますか。



△図5▽
○もっとことばを増やしてみよう。
○今度はこの図です。さあ、□の中には、どんなことばが入りますか。



△図6▽
○みんなが書いたことば
○本時の学習は、語彙構

○むかい合ったことばが対立関係にあることをとらえさせたい。

○この図にあることばは、むかい合ったもの同士対立関係にありながら、どれも「気」であるということにおいて、同類になっていることに気づかせたい。

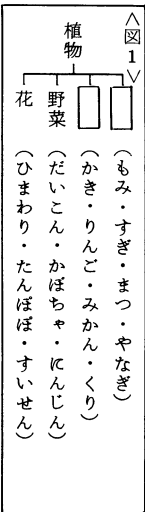
○この図においては、ことばが対称的に関係し合っていることをわからせたい。

は、色々な関係で結びついていることがわかりました。
○これらの関係を、さらに広げるとどうなるかは、次の時間に考えましょう。

成という相関関係の認識を得るための第一歩であり、多くの問題が残っていることを確認させたい。

2. 授業記録とその所見

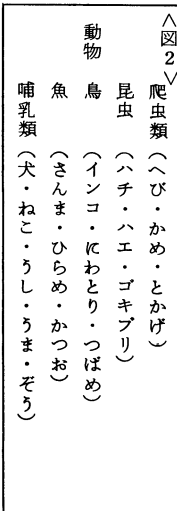
T 今日辞書作りのことばを使って、ことばとことばの関係の勉強をします。



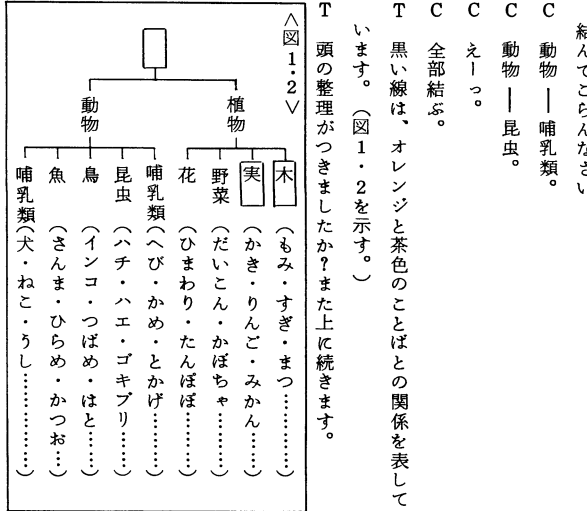
C わかった。
T これは、みんなの作った辞書の中のことばで、先生が作った図です。この□の中になんかことばが入るかな。

- C 木。
- T それと同じ人。
- C (手が上がる)
- T ここには?
- C くだもの。
- T ちがう人。
- C 実。
- T どうして実なの?
- C くりはくだものじゃないから。

T 正解は実です。二枚目を出します。
— きょうは、ことばとことばの関係を勉強すると言っておきながら、「正解」というような処理をしたのは良くなかった。ここでは、「実」「くだもの」「かき」「りんご」「みかん」「くり」といったことばが、どのように関係し合っているかを考えさせるべきだった。

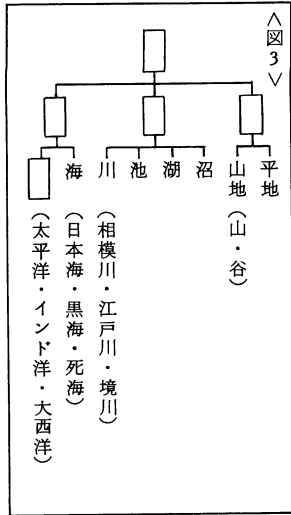


C あれ? 全部書いてある。
T 何が書いてあるかよく読んで、茶色の四角がどんなふうにつながっているかということを考えて下さい。線で結んでごらん下さい。



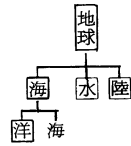
T 頭の整理ができましたか? また上に続きます。
C 全部結ぶ。
T 黒い線は、オレンジと茶色のことばとの関係を表しています。(図1・2を示す。)

- C (生きものだ、生きものだよ。)
- T 赤の四角には何が入りますか。
- C 生きもの。
- C (あっている。)
- T 生きもので良いと思う人。
- C (多数手を上げる。)
- T 違うことばで言うかと？
- C 生物。
- T みんなむずかしい顔しているけど、これみんなが書いてくれたことばよ。



- C' えーっ。(考えている。)
- C 全部わかる。

海って書いてあるところは広い海だから洋。その上が海なの。



- C 地球っていうのが気に入ったなあ。
- T これみんなあっています。

海が二つあるけど、区別できない？

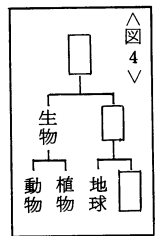
ここで正解としたのは誤りだった。海ということには同じ海をつなげては、ことばとことばの関係の学習にはならない。海・洋・地球、などと、図のような線でつながっているのは、どんなことばなのか、解うべきだった。

- T 陸と同じことを陸ということばじゃなくて言えない？
- C 地上
- C 土地
- C 陸地
- T 陸地にします。

水・海・陸地の三つは横に並んでいるんだから、水と海を、別のことばに変えられないかな？

- C 海のとこ塩水。
- T 水の字と何かをくっつけたら？
- C 水地。
- T 水陸っていうの。
- C 海陸。
- T これで三つ並びました。むずかしかった？
- C うん。

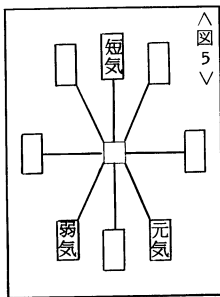
- T 赤の四角とオレンジの四角をくっつけたそのまた上を考えます。



- T 地球から星を見るときに〇〇望遠鏡っていうね。
- C 天体。

- T 地球と天体をまとめたら？
- C 宇宙。
- T その上は何。
- C 自然。

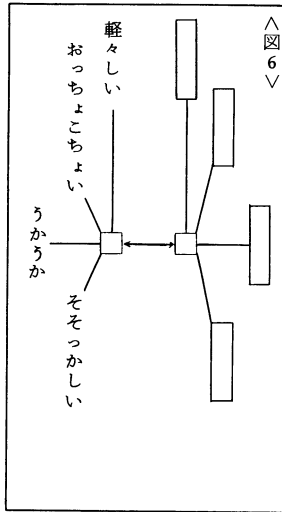
みんなの書いてくれたことばを整理すると、こんなふうになったの。次はこれです。



- C えーっ。元気？
- C 全部二文字。
- T ここに入るものを言ってみて下さい。
- C まん中は、人間。
- T ちがう人。
- C 気。
- C 気持。
- T 人間・気・気持。どれかな？この線がヒントです。
- C 気。
- T 弱気の反対側のところは？

- C 強気。
- C 元気の反対に病気。
- C 短気の反対に内気。
- C 短気の反対に長気。
- T このしくみは、反対になっているのよね。
- C 正気とその反対は？

- T 正気の反対は？
- C (バカ)
- C 正気の反対は反気。
- C うそん気。
- T もっとふやせないかな。
- C 空気。(わらいながら。)
- T 空気は入れた方がいいかな？
- C 入れない方がいい。空気の反対のことがないから。
- C 図4の方に入れた方がいいから。
- T これ、I君が書いてくれたことばなの。
- T さて、形をよく見て、四角の中に入ることばを考えて下さい。
- C (あれの反対を言えばいいんだ。)
- T ひとつ、わかりやすいのがあるでしょう。
- C 重々しい。
- T いいね。軽々しいの反対だものね。
- C 冷静。
- T 冷静もおちつくもいいんだけど。
- C おちつく。
- T 冷静もおちつくもいいんだけど。
- C そわそわ。
- T そわそわは、オレンジ(重々しいのグループ)にしてもいいかな？



- T むらさきの方(軽々しいのグループ)にそわそわを置きたいという人？
- C (何人か手が上がる。)
- T ひらがな四つで、うかうかの反対にぴったりすることばないかしら。
- C むずかしい。
- T 青と赤の四角はどうかしら。これは漢字が一つ入ります。
- C 馬鹿と利口。
- T それでは漢字一つじゃないね。
- ここで、馬鹿と利口を取り上げ、脳みその重い、軽いとの対比より、重と軽を導いた方が、子どもには、すんなり納得できたかもしれない。
- C 軽いと重い？
- T きょうは、ことばとことばの関係の勉強をしました。
- 図1・2はよくできたけれど、図6はむずかしかったようですね。図6にどんなことばが入るか、これからも考えて下さい。
- T ことばってというのは、ひとりぼっちのことばはないの。つながらないことばはないの。ひとつのことばがあると、それは全部手を出しているの、必ず友達を持つてるの。みんなは、ことばを覚えてきたけれど、手を持っていることを知らなかったんだね。今日のようなのは、ことばとことばをつなぐ勉強ですね。ことばは、となりの友達のことばをさがしながら勉強していきましょう。
- T 今、上原先生のおっしゃったことを考えて、これから勉強しましょうね。

(東京・町田南第四小・教諭)